



今年度は附属小の  
「創立150周年」です。  
ワクワクでいっぱい年にしていきます！

令和6年度 附属小学校だより

# スマイルふぞく<sup>4</sup>



第10号 令和7年3月3日（月） 校長 古野 祐一

## 学校評価で更なる改善に努めます！

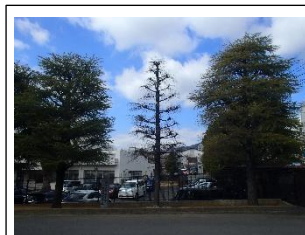
学校評価への御協力、ありがとうございました。学校づくりは、児童・保護者・学校職員の気付きや意見などを反映させながら一つずつ改良していくものです。高く評価していただいたこと、不満を感じられていること等に真摯に向き合い、改善的思考で今後に繋げてまいります。その中で、次へと向かう活力になりました学校への励ましを一部抜粋して御紹介させていただきます。

- ・変わることを恐れず、伝統を重んじながらも、新しい挑戦を続け、様々な事に取り組む学校側の姿勢を見ていて、子供たちや親も様々な気付きや影響をいただけている。
- ・担任の先生がお忙しい中、何か困ったことがあると子供の話にしっかりと耳を傾けていただいているようで、子供から学校の話聞かせてもらおうと先生をとて信頼しているんだなあと感じております。毎日、笑顔で元気に迎えていただき、大変感謝致しております。
- ・体夢での活動、外部の講師の方々への授業、北斗祭や音楽祭、お仕事体験、食育、図書館づくりなど他にも多くの特色ある教育が受けられることに感謝いたします。
- ・レクリエーションの企画や図書館の整備において、子供の意見を積極的に取り入れる教育姿勢が素晴らしいと感じています。子供たちが自らの意見を反映させることで、主体性が育まれ、より豊かな学びの環境が実現しています。

こうした温かい眼差しに後押しされ、この1年の歩みを進められた附属職員一同です。加えて、改善に気付かされる貴重な御意見も数多くいただきました。校舎内の汚れや傷み等への気付き、給食の取組に関する御意見、教師の子供への関わりに対する御指摘、学校運営に関する要望等です。こうした御意見をいただきながらも、「何か協力できることがあればお声掛けください」という心強いサポーターとしてのお言葉を添えていただいていた保護者の方もいらっしゃいました。ますます学校改善に努めねばと、皆のやる気が高まっているところです。詳細は、後日お知らせいたします。

## 150周年記念の桜を植樹！

150周年記念事業を締めくくる、桜の植樹が完了しました。校門に入って右側の松の木が一本枯れていて倒木の危険性もありましたので、伐採した後に新しい土を入れ植樹しました。ジンダイアケボノという種類で、一般的なソメイヨシノよりも濃いピンク色でグラデーションがかかっているため、とても華やかに見えるそうです。まだ苗木ですので、年々、成長していく桜の花を皆で楽しみたいと思います。名前を、「スマイル桜」と名付けました。北斗の子の幸せと笑顔を見守り、励まし続けてほしいという願いを込めています。育友会の皆様と協力して取り組んできた、150周年記念事業にふさわしい取組を嬉しく思います。



校門に入って右側2番目の松が枯れていました！



枯れた松を伐採し掘り起こしています！



土が流れないようにブロックで固定！



よく見ると小さい蕾がちらほら見えます！

※裏面に続きます！

## 子どものちから

今年の持久走大会は、グラウンド状態が悪い中の開催となりました。試走との距離が違う、足元がぬかるみ、スピードを抑えながら走るなど、大会を目標にしてきた子どもにとっては、満足できるコンディションとはなりませんでした。

そのような中、宣言タイム賞を目指している子どもを対象に「リトライ大会」を実施しました。この大会の出場は、あくまでも任意です。持久走を苦手としている子どもにとっては、2回も走らなければならないのは苦痛でしかありません。

私は、ある一人の男の子の頑張りに胸が熱くなりました。その子は、決して持久走が得意というほど速くありません。リトライ大会は、自信がある子どもの参加が多いだろうという私の予想を裏切り、その子も参加しました。最後まで走りきり、宣言タイムより30秒速くゴールしましたが、走った後の満足そうな笑顔が印象的でした。

## リ・トライ 一步前へ何度も挑戦

数日後、自分を動かす言葉の授業の中で、その子は「最後まで やりぬく全力で」を大切にしていることが分かりました。諦めずにやったことは、人生の積み重ねとなる。そして人を励ます力になる。力強く級友の前で発表していました。

この子にとっての持久走は、まわりとの比較ではなく、自分自身との勝負。得意だから、自信があるからではなく、ベクトルが自分を高める方に向いています。学びに向かう力や学び続ける人間性を大切にしたい、これから生きぬく強さと可能性を秘めていると感心しました。

偶発的な開催となった「リトライ大会」。何度も挑戦することができる機会は、子どもの可能性を大きく伸ばすことにつながります。何度も挑戦する子どもを育む本校の学校教育目標を体現した姿を見せてもらいました。

教頭 橋田 晶拓

## 教えから学びへ<sup>2</sup>

### 省察

教育研究発表会、私は受付や弁当引き渡し等の業務のため、職員の授業は一つも参観することができませんでした。しかし、授業中の子どもの姿や、研究の成果、課題を知ることができます。それは、職員が作成する「省察レポート」によってです。



竹下教諭のレポート（一部抜粋）

4年3組担任、体育科の授業を行った竹下教諭のレポートには、子どもの反応や具体的な教師の声掛けがまとめられています。また、環境の工夫や子ども同士のフィードバックの価値を見だし、次年度に向けての見通しを抱いていることが伺えます。

授業中の瞬間瞬間に表われる子どもの生の声やそこに対し即興的に繰り出される教師の手立てを、数値化して評価することは難しいものです。そこで、レポート作成を通して言語化し、省察することで、次年度以降に残していくものややめること、新たに加えていくこと等を見だし、授業改善の道筋を明らかにすることができるのです。

授業中の瞬間瞬間に表われる子どもの生の声やそこに対し即興的に繰り出される教師の手立てを、数値化して評価することは難しいものです。そこで、レポート作成を通して言語化し、省察することで、次年度以降に残していくものややめること、新たに加えていくこと等を見だし、授業改善の道筋を明らかにすることができるのです。

「課題を発見し、思考し、振り返る」という自律した学びのプロセスを、職員自身が実践し、その価値を実感しています。

主幹教諭 松尾 勇哉

## 身近な幸せ

### 「やってみないとわからない」心持ち

新しく生まれたこの『スマイルパーク』も、すっかり子どもたちの憩いの広場になりました。みんなが心地よく過ごすことができる空間にするために、自分たちで考えた利



用のマナーを言語化し、共有し、声を掛け合いながら過ごす様子が見られています。自分たちの願いから創り出された空間を大切にしようとする姿は、「自分たちの学校は自分たちで創る」という合言葉の大きなモデルとなったのだらうと感じます。

また、そう感じると同時に、本校はさらに変化が起きるかもしれないという期待感も感じています。図書館の改造を皮切りに、子どもたちの動きがさらに活性化しています。学年を交えた交流会を実施したり、給食時間には子どもたちが作成した動画が流れたりしました。自分たちの「こうしてみたい」という願いから、「自分たちにできること」を探し、行動に移す。「やってみないとわからない」という心持ちが子どもたちの眼差しをさらに輝かせています。

自分たちでやってみる楽しさを実感した子どもたちの次なる展望が何か、このワクワク感は学校でしか味わえない幸せです。

教務主任 野口 拓也